



Title	今秋スタートする「大阪21世紀計画」
Author(s)	加藤, 良雄
Citation	makoto. 1983, 42, p. 7-7
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86059
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

今秋スタートする「大阪21世紀計画」

財団法人大阪21世紀協会

専務理事 加藤 良雄



大阪ではことし十月から「大阪21世紀計画」がスタートします。これは21世紀の大阪を世界のモデルとなるような立派な「国際都市」にしようというもので、今後二〇〇一年が到来するまでの十八年間にわたり実施していくという大計画です。

ここでいう「国際都市」とは、まず立派な国際空港をもち、国際会議場をはじめ各種の国際的な公共施設が完備していて、そこに集る世界の人びとが、分野での国際的な活動を展開するにふさわしい都市、ということになります。

そのような観点に立って現在の大阪をながめると、残念ながらそれらの施設がまことに不十分だといわねばなりません。そこで「大阪21世紀計画」では、まず各種の国際的な公共施設をつくることに、第一の目標をおいています。

労働力がいろいろな製品を生

み出した20世紀とは異なり、21世紀は先端的な情報や知識が新しい技術、産業を創造する「チェの文化」の時代だといわれています。

情報や知識は、内外の多くの人びとが交流することによってもたらされます。そして人びとが交流するためには、その拠点となる公共施設が必要なのです。逆のいい方をすれば、立派な施設があるところには必ず立派な情報や知識が集る、ということになります。

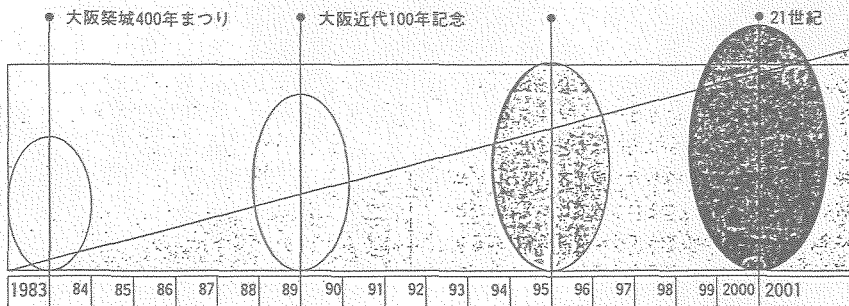
さて、情報や知識とは、なにも商売や産業に限ったものではなく、学問、芸術、文化、スポーツ、観光等々、あらゆる方面にわたることが、国際都市としては望ましいわけです。そのための公共施設といえば、例えば国際会議場、国際見本市会館、音楽や演劇、産業、経済活動に必要な各種のホール、学問、技術のための研究機関、スポーツの

ための施設、観光のために開発された資源……といったことになりましょう。

ところで、このような公共施設の建設には大変な費用がかかります。とても個人の力では及びません。そこで国や自治体に働きかけて、建設を促進する必要があります。あるわけですが、財団法人「大阪21世紀協会」では、その気運を盛り上げ、計画の実行を推進するためのエネルギーとして、国際的な「大イベント作戦」を展開することになっています。

「大阪21世紀計画」のスタートと同時に開幕する「大阪築城四〇〇年まつり」は、その作戦の第一段です。豊臣秀吉が大阪城を着工してから、ちょうど四百年目にあたる今年を記念してくり広げられるこの「まつり」は、いわゆる「お城まつり」ではなく、国際的な、あるいは国民的な各種イベントの集合体です。

大阪のメインストリート「御



堂筋」で、多数の外国チームも参加して大オープンバレーボールを挙行、また大阪港に諸外国の豪華帆船を集めて「世界帆船まつり」を開催するなど、そのほか国際色豊かな、盛りだくさんなイベントが、大阪全域を舞台として約一年間くり広げられます。

イベント作戦は一回きりで終るものではなく、21世紀が到来するまで、あらゆる機会をとらえてくり返し継続して開催されることになっています。

これによって大きなエネルギーが発生し、大阪の国際都市化が一日も早く実現すれば……というのが「大阪21世紀計画」の切なる願いです。

